

タイトル：大峰口女人堂跡

女人道の沿道にある他の堂と同じように、大峰口女人堂も、明治時代（1868-1912）初期に閉鎖されるまで、旅人たちの集会所や宿泊所として使われていました。その名前が示しているように、この女人堂は、大峰山の門の役割をしていました。大峰山は最も聖なる山の一つで、山の中で苦行を行う行者である山伏の修行に重要な役割を果たしていました。大峰山は奈良県にあり、高野山の東におよそ 50km のところに位置しています。何世紀にもわたり、僧侶や巡礼者たちは修行や参拝のために聖なる山々の間を歩いて旅をしました。

大峰口女人堂を高野山と結んでいる道は女人道から南西にほんの 2、3 分歩いたところにあるのですが、大峰山に至る主要道路はこの場所で女人道から分岐していたのではありませんでした。女人道から摩尼山の頂上近くで分岐した山道の一部は、今では高野三山巡りとして知られるルートの一部になっています。聖なる山々が、尊敬の証として自然のままの状態に保たれていたため、大峰口女人堂は山道をさらに下り、この場所に置かれました。ここの方が、旅人たちが補給物資を得やすく、高野山の寺院にも近かったからでしょう。